

講義名	専門基礎演習（経）			授業形態	
担当教員	辻 美代	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

1年次の「気づきの教育」を経て探索している「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。

「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。

これらを通じて、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき5項目の資質・能力を身につけた人材（「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 自主・自立の精神を持った人材 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材）となるための確かな基礎を築く。

到達目標

・「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成能力、プレゼンテーション能力を含む基礎的なコミュニケーションの能力・技能を身につけることができるようになる。

・学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルで様々な情報ツール（文書作成、プレゼンテーション等のツール、新聞、文献等の情報検索）を活用できる能力・技能を身につけることができるようになる。

・ある程度専門的なテキスト（文章）を読める基礎知識、それらを理解して要約・発表等ができる能力を身につけることができるようになる。

・次期以降に展開される専門ゼミ（「研究演習Ⅰ」）の位置づけを理解し、将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミを選択できるようにする。

提出課題

経済学部の専門基礎演習は、第1回～第8回と第9回～第15回に区分される。

第1回でのガイダンスを踏まえ、第2回～第7回では、専門基礎演習担当の経済学部所属教員がそれぞれ専門分野についてのミニ講義を行い、その中で「研究演習」（通称「ゼミ」）を開講する教員はゼミについての説明を行う（第7回は資料や動画による説明となる）。これらの受講を通じて、受講生は経済学部の専門教育についての見通しを得るとともに、内容をきちんと理解したうえでゼミ選択できるようになる。また、ノートテイキングとそれをもとにしたまとめ作成ができるようになる。そのため、毎回ワークシートの課題を課す。

第8回は、研究演習、第1次募集申込書作成状況を確認し、ゼミ選択の交流をおこなう。また、第8回までの専門基礎演習の内容を振り返るワークシート課題を課す。

第9回～第15回は、クラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

第1回～第8回のワークシートについては、担当教員による確認等を経て受講生に適宜コメントする。

第9回～第15回の提出課題に対するフィードバックは担当教員により異なる。

評価の基準

研究演習第一次募集までのパート（第1回～第8回）を60%、クラスごとの演習（第9回～第15回）を40%で評価する。欠席5回以上の者については、単位認定できない（「」評価）。

研究演習第一次募集までのパート（第1回～第8回）の成績判定は、おおむね次のとおりとする。

ほぼ全回出席（欠席1回まで）で毎回のワークシートをきちんと作成、提出していれば、A（100点満点で85点）とする。以上の条件を満たし、ワークシートの内容が顕著に優れていれば、A（100点満点で95点）とする。

以下、欠席の状況とワークシートの提出状況によって、B（100点満点で75点）、C（100点満点で65点）、D（100点満点で55点以下）の判定を行う。D判定は、第8回までで欠席3回ないし4回の者、あるいはワークシート未提出が3回ないし4回の者、あるいはワークシートの内容が著しく不良である者とする。

履修にあたっての注意・助言他

この科目の到達目標を達成するため、毎回出席し、課題を提出する必要がある。

資料や課題については、キャンパスクロス、またはRYUKA Portal を通じて配信することがある。また、メールでの連絡もありうる。こまめに確認し、指示に従うこと。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

資料は、必要に応じて演習中に配布するか、事前にキャンパスクロス、またはRYUKA Portal を通じて配信する。

事前配信の場合：ダウンロードし、印刷するなど、演習に向けて準備すること。

参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

授業計画

1. 専門基礎演習の運営方針説明、自己紹介など
 2. 3名（村上友章、平越裕之、辻美代）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
 3. 3名（内山勝久、窪田淳、羽森良子）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
 4. 3名（上海聖生、徳阿千伊奈）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
 5. 3名（三谷智雄、森澤隆也、丸山亜希子）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
 6. 3名（伊藤淳、開博、竹内信行）のミニ講義を受講し、ワークシートを作成する
 7. 3名（橋本光生、後藤光生、中島光生）の資料または動画をもとに、ワークシートを作成する
 8. 研究演習 第1次募集申込書提出状況の確認、ゼミ選択の交流をおこなう
- * 9回目から15回目までは、時事問題に関心を持ってもらい、情報の集め方を学び、一番関心のある時事問題についてパワーポイントに纏め、報告して頂きます。
9. 時事問題に興味を持つ
 10. 日本について知る、興味を持つ
 11. 世界について知る、興味を持つ
 12. 日本と世界の結びつき
 13. 図書館・メディアセンター演習
 14. 報告会
 15. 報告会

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の課題に取り組み、学習内容を身に付けること。担当教員の指示にしたがって必要な予習を行うこと。以上をうけて、1回の演習につき4時間程度の事前・事後学習が必要となる（研究演習 第1次募集申込書の作成の時間なども含む）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は経済学部共通科目の特別研究に位置づけられており、経済学部ディプロマ・ポリシーで述べられている「経済学の知識を幅広く修得し、総合的考察と情報処理能力に秀でた人材」となるための土台づくりを行う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習形式の授業である。学生はワークシートや課題を提出し、教員がそれについてコメントする。また、学生の発表や学生間の議論を実施する。

実務経験の有無及び活用

備考

キャンパスクロス、RYUKA Portal、メールをこまめにチェックすること。